

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：34301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011 年度 ～ 2012 年度

課題番号：23820065

研究課題名（和文）国会図書館所蔵「朝鮮筆記」の研究-かな書き朝鮮語に着目して

研究課題名（英文）Philological Study of “Chosen-Hikki(「朝鮮筆記」)” : focusing on kana transcriptions of Korean

研究代表者

許 秀美 (KYO SUMI)

大谷大学・文学部・助教

研究者番号：50612826

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本国立国会図書館に所蔵されている「朝鮮筆記」という写本に収録された、かな書き朝鮮語語彙に着目し、同時期に編纂された他のかな書き朝鮮語語彙集と比較しつつ、ハングル表記の復元および音韻論的検討をおこなったものである。さらに「朝鮮筆記」が合綴されている「加模西葛杜加国風説考」をはじめとする 10 種類の資料について文献学的検討をおこない、それぞれの底本を明かにした。

研究成果の概要（英文）：An attention was paid to the kana transcription of Korean recorded on a manuscript of “Chosen-Hikki” stored in the National Diet Library. The kana transcription found in the manuscript was compared to other kana transcription of Korean edited around similar time and restoration and phonological study of Korean transcription was attempted. Further, bibliographical research on ten different documents, in which “Chosen-Hikki” is bound together, such as “Kamusasukakoku Fusetsu Ko” was conducted and the source book of each document were clarified.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：朝鮮語学書、かな書き朝鮮語、対馬宗家文書、倭館

1. 研究開始当初の背景

対馬および薩摩苗代川で編纂された朝鮮語学書の現存資料の多くは、1960 年代に京都大学国文研究室より影印刊行された。しかし、10 年ほど前から陸続と発見される新資料によってこの分野の研究は、新たな局面にさしかかってきている。

本研究の代表者は、このような学界の動向に呼応して、精力的に新資料の調査をおこなってきたが、2008 年 6 月、国立国会図書館において、従来学界に知られていない「朝鮮筆記」という写本を発見した。「朝鮮筆記」なる書は、この国立国会図書館本が現伝の唯一本であるものごとく、他に伝わることを聞かない。本書「朝鮮筆記」において最も注

目されるのは、「朝鮮語右訳下訓」の条に収録された全270項目におよぶかな書き朝鮮語語彙である。標題語は漢字で表記され、その右あるいは下にカタカナで朝鮮語語彙の発音が注記されている。これらを『朝鮮筆記』と同時期の資料である『倭語類解』や『絵入り異国旅硯』、『朝鮮物語』などに収録されている朝鮮語語彙との対照をおこなった結果、他の資料の標題語と同じ漢字を収録しているにもかかわらず、全く異なる発音を表記しているものや、どの資料にも掲載されていない標題語が多数含まれていることがわかった。

また、本書「朝鮮筆記」は、写本「加模西葛杜加国風説考」の後ろに合綴されているが、その「加模西葛杜加国風説考」の中に、幕末の探検家最上徳内の言に拠ったと思われる注記があらわれることから、「加模西葛杜加国風説考」の部分の成立には最上徳内が関連しているものと見られる。一方、「朝鮮筆記」のほうも、幕末の八王子千人同心松本斗機蔵が書き残した最上徳内の蔵書目録の中にその書名が確認され、最上徳内と関連がみとめられる。本書前半部の「加模西葛杜加国風説考」と後半部の「朝鮮筆記」がともに最上徳内と関わりを持っていると考えられ、そのような経緯から両書が合綴されたのではないかと推測される。

本書「朝鮮筆記」の成立過程をさらに詳しく明らかにするためには、本書「朝鮮筆記」とともに収録された「文化元子年九月廿九日魯斯亜船渡来国王ヨリ我邦エ呈スルノ書」、「別勒空律安設戦記」、「或間海防漫記」、「琉球談抄書」、「無人島漂着者始末書」、「依崔天淙見殺之事従三使贈対州公之書」、「三使口上」、「傾蓋唱和録」、「鐵函心史抄書」等の各条目について、対馬宗家文書をはじめとした歴史記録類との照合を実施する必要がある。

2. 研究の目的

朝鮮語の音韻史の研究にとっていわゆる外国資料は本国資料に劣らず有用な資料である。外国の文字によって表記された資料には本国の文字資料にはあらわれない音韻的特徴が反映されることがあるからである。「朝鮮筆記」もハングルで書かれた朝鮮語の本国資料からはうかがえない音声的・音韻的特徴を伝えており、朝鮮語音韻史の反省の材料を提供することが期待される。

本研究においては、「朝鮮筆記」につき、その文献学的・言語学的検討を実施して、本文の翻字・かな書き朝鮮語のハングル表記の復元をおこなう。さらに、本書「朝鮮筆記」と対馬宗家文書との照合により本書の成立過程について検討する、かな書き朝鮮語語彙

を解説する、その転写システムを解明する、その朝鮮語史上における位置づけについて検討する、等の作業を実施する。これらの検討・考察をおこなった後、本研究の結果を学会で発表することによって、この資料を、この分野にたずさわる研究者一般が利用できる形で、ひろく学界に提供することを目的とする。

3. 研究の方法

「朝鮮筆記」ならびに「朝鮮筆記」が合綴されている「加模西葛杜加国風説考」をはじめとする「文化元子年九月廿九日魯斯亜船渡来国王ヨリ我邦エ呈スルノ書」、「別勒空律安設戦記」、「或間海防漫記」、「琉球談抄書」、「無人島漂着者始末書」、「依崔天淙見殺之事従三使贈対州公之書」、「三使口上」、「傾蓋唱和録」、「鐵函心史抄書」等の解説と文献学的検討および言語学的検討を実施する。また、「朝鮮筆記」のデータベースを作成する。文献学的検討は、「朝鮮筆記」ならびに「加模西葛杜加国風説考」と関連のある諸資料の収集および照合作業をおこなう。言語学的検討は、「朝鮮筆記」の「朝鮮語右訳下訓」の条に収録されたかな書き朝鮮語語彙を同時期の資料と対照をおこないハングル表記の復元をおこなう。

4. 研究成果

「朝鮮筆記」は、写本「加模西葛杜加国風説考」の後ろに合綴されているが、この「加模西葛杜加国風説考」には、「朝鮮筆記」のほかに、「文化元子年九月廿九日魯斯亜船渡来国王ヨリ我邦エ呈スルノ書」、「別勒空律安設戦記」、「或間海防漫記」、「琉球談抄書」、「無人島漂着者始末書」、「依崔天淙見殺之事従三使贈対州公之書」、「三使口上」、「傾蓋唱和録」、「鐵函心史抄書」なども合綴されている。

「加模西葛杜加国風説考」およびそれに合綴された各書の書誌事項は以下のとおりである。

日本国立国会図書館所蔵、図書請求番号[854-77]、マイクロフィルム請求記号[YD-古-6586]、一冊、写本、縦24cm、全89丁。その題箋には「加模西葛杜加国風説考」とあり、題箋の右側に「本名赤蝦夷(やや小さめの文字) 加模西葛杜加国風説考 抜粹」、「附録魯西亜文字之事」、「魯西亜国ヨリ呈スル書翰写」、「別勒空律安設戦記」、「或間海防漫記」と目次のごとき記載がある。しかし、実際には、「朝鮮筆記」を含め、全部で11種の書が合綴されており、本書おもて表紙の如上の記載とはくいちがっている。

本書の筆写者については、「望嶽」と「源

崇広」の二つの名が見られるが、筆跡を見たかぎり、両者の差異は感じられず、同一人物ではないかと推察される。しかし、「望嶽」、「源崇広」が何者なのか未だ確認ができていない。

初年度は、「加模西葛杜加国風説考」をはじめとする10種の写本の関連文献を収集し、照合をおこなった。その結果、それぞれの底本を明かにすることができた。「加模西葛杜加国風説考」に合綴された写本は以下の通りである。

(1) 「加模西葛杜加国風説考」

「加模西葛杜加国風説考」の写本としては、本書国会図書館本のほかに、松平定信旧蔵本である天理大学附属天理図書館所蔵本などが知られている。本書国会図書館本と天理図書館本を対照してみれば、前者は後者の一部分のみを抜粋し、さらに筆写者が随意改変を加えたものであることがわかる。

(2) 「文化元子年九月廿九日魯西亜船渡来国王ヨリ我邦エ呈スルノ書」

これは、文化元甲子年(1804)九月に長崎へ渡来した魯西亜船が持参した魯西亜国王の書簡の内のひとつを筆写したものである。文化元甲子年九月の魯西亜船渡来の一件は、日本国立国会図書館が所蔵している「文化元甲子年九月長崎表エ魯西亜船渡来之次第」に詳しい。

(3) 「別勅空律安設戦記」

「別勅空律安設戦記」の写本には、「青地盈訳」本と「吉雄亘、青地盈同訳、高橋景保校正」本の二種が存在することが知られているが、国会図書館本は、青地盈訳本に当たる。しかし、筑波大学附属図書館、早稲田大学図書館、国際日本文化研究センター図書館に所蔵される青地盈訳本と対照してみた結果、これら諸本には、「千八百十四年 文化十一年甲戌第五月三十日同盟の諸国の軍概ニ～(中略)～ローデウエーキ第十八世王ヲ再其国王ニ定メ～(後略)」とあるところを、国会図書館本は「千八百十四年 文政十一年甲戌第五月三十日同盟の諸国の軍概ニ～(中略)～ローデウエーキ第十世王ヲ再其国王ニ定メ～(後略)」とするなど、筆写の際の底本が誤っていたのか、事実と異なる記載が数か所見られる。

(4) 「或問海防漫記」

江戸の儒学者古賀侗庵が文化十三年(1816)に編纂した『俄羅斯紀聞』の第四集に「或問海防漫記」が収められている。早稲田大学図書館所蔵『俄羅斯紀聞』所収の「或問海防漫記」と本書国会図書館本の「或問海防漫記」とを対照してみたところ、両者書名には違いが見られるものの(「或問海防漫記」と「或

問海防漫記)、内容は同一であることが確認された。

(5) 「琉球談抄書」

この「琉球談抄書」は、万象亭森島中良の著書、『琉球談』を部分的に抜粋、筆写したものである。すなわち、通計30条の項目がある『琉球談』の中から、「琉球国の略説」、「日本江往来之始」、船や官民帽などの挿絵、「貢物」、「官位并冠服図説」、「琉球語」、「讀谷山王子ノ和歌」の部分を筆写したものである。

(6) 「無人島漂着者始末書」

この「無人島漂着者始末書」は、天明五年(1785)、土佐国岸本の長平なる人物が赤岡浦から田野浦と奈半利浦へ米を船で運んだ帰りに西風にあい無人島に漂着した記録である。この漂流事件は、日本国立国会図書館所蔵「土佐國群書類従漂流80」の「岸本長平無人島江漂流之覚書」にも詳しく記録されている。両者を対照してみると、話の内容はほぼ一致するも、語句・表現は両者一致しないところが散見される。

(7) 「依崔天淙見殺之事従三使贈対州公之書」

これは、明和元年(1764)四月七日に対馬の通詞鈴木伝蔵が朝鮮使節の一員都訓導崔天宗を殺害した事件についてやりとりした書簡の一つであるが、本書の底本と思われる書簡が、長崎県対馬歴史民俗資料館が所蔵している対馬藩宗家史料中の『鈴木伝蔵一件ニ付上々官より之真文并和ケ・三使より之書翰并和文・伝蔵同役中江遣候書付』に収録されている。

(8) 「三使口上」

この「三使口上」の末尾に「三使」についての記載はないが、内容から推測するに、上記の「依崔天淙見殺之事従三使贈対州公之書」を書いた三使であると思われる。崔天淙殺人事件についてやりとりした書簡のひとつだと思われる。

(9) 「傾蓋唱和録」

本唱和録は、宝暦十四年(1764)仲秋廿九日、於東本願寺館舎の記載があること、筆談者に南玉、成大中らの名が見られることから、上述の「依崔天淙見殺之事従三使贈対州公之書」、「三使口上」と同様、第十一次朝鮮通信使来聘時の記録であると思われる。

ところで、この時の朝鮮通信使の正使趙儼のあらわした『海槎日記』の「酬唱録編」には、同一内容の唱和集は見当たらない。その他、朝鮮通信使関係唱和集の各種の目録においても、「傾蓋唱和録」は、本書国会図書館本のみが紹介されており、本書が唯一本であると思われる。よって、その底本についても不

明とせざるをえない。

(10)「鐵函心史抄書」

「鐵函心史」は、宋が元に滅ぼされたのを憤慨して作った詩文集で、著者は宋末の遺民鄭所南（名は、思肖）である。「鐵函心史」は、久しく世にあらわれなかったが、明の崇禎十一年(1638)に至って、江南呉郡の承天寺の井戸から発見され、その鉄函に密封されていたことから、「鉄函心史」と呼ばれている。本書国会図書館本「鐵函心史抄書」は、「鐵函心史」の中興集乙の条におさめられている漢詩の一部を抜粋して筆写したものである。

「朝鮮筆記」は、松本斗機蔵が書き残した最上徳内の「蔵書目録」にその名を確認できるものの、国会図書館本「加模西葛杜加国風説考」に合綴された本写本が現伝の唯一本である。「朝鮮筆記」は、国会図書館本「加模西葛杜加国風説考」およびそれに合綴された各書全89丁のうち、末尾部分の8丁分(82a~89b)を占める。内容のほとんどは、慶尚道の草梁倭館に関する事、対馬と朝鮮との交易に関する事である。しかし、その順序・体裁については、朝鮮より日本へ送る品々の記述のあと、「白頭山ト云山咸鏡道之内ニ有」と、朝鮮の地理についての記述があらわれるも、すぐその後には、また倭館に関する記述に戻るなど、相当混乱した様相を呈している。なんらかの底本を筆写者が随意に抜粋し、部分的に筆写したためではないかと推される。その底本については、松本斗機蔵が書き残した最上徳内の「蔵書目録」にある「朝鮮筆記」であるのか、最上徳内の「蔵書目録」記載本以外の別本であるのか、目下不明とせざるを得ない。

「朝鮮筆記」の内容は次の通りである。

- ① 馬の家老や通詞の人数や俸禄
- ② 日本から朝鮮へ、朝鮮から日本へ送る品々の品目
- ③ 朝鮮の地理
- ④ 慶尚道草梁倭館の様子と風俗
- ⑤ 対馬より朝鮮へ渡る船の構成
- ⑥ 倭館での勤務形態
- ⑦ 虎退治の記事
- ⑧ 朝鮮語右訳下訓

まず、①対馬の家老や通詞の人数や俸禄については、対馬家老の名前と、俸禄について記述されているが、杉村直樹 や古川図書らの名前が見られる。

次に、②日本から朝鮮へ、朝鮮から日本へ送る品々の品目については、日本からは、白砂糖、画本、傘や胡椒など20品目、朝鮮からは、人参、五味子、虎皮や豹皮など35品目の記述がある。

次に、③朝鮮の地理については、「白頭山ト云山咸鏡道之内ニ有」という一文が見られるのみである。

次に、④慶尚道草梁倭館の様子と風俗については、正月の風景、服装、宗教、住居の形式などの記述が見られる。

次に、⑤対馬より朝鮮へ渡る船の構成については、「第一船送使二艘正月八十五日留ル」など、使者の名目と船の艘数、滞在日数などについての記述が見られる。

次に、⑥倭館での勤務形態については、「和館主取立家老之内ヨリ三年老度交代」など、それぞれの役職の交代年数などの記述が見られる。

次に、⑦虎退治の記事は、明和八年(1771)三月に倭館内で虎を退治した内容の記述である。

最後に、⑧朝鮮語右訳下訓は、全270項目の漢字の標題語を掲げ、その右あるいは下にカタカナで朝鮮語語彙の発音が表記されている。

この成果は、論文として大谷学会に投稿し(2011年12月)、大谷学報に掲載された。(2012年3月)。

最終年度は、「朝鮮筆記」の末尾の「朝鮮語右訳下訓」の条に収められている延べ270個のかな書朝鮮語語彙について、言語学的検討をおこなった。

「朝鮮筆記」のかな書き朝鮮語語彙は、「朝鮮筆記」の末尾の「朝鮮語右訳下訓」の条に収められている。延べ270個の語彙が収録されているが、「油」と「墨」が重複しているので、異なり語彙数は268個である。一丁に縦9個、横9~10個の標題語を書き、標題漢字の右あるいは下にカタカナで朝鮮語語彙の発音を表記している。「右訳下訓」としているものの、必ずしもその通りではない。本資料のかな書き朝鮮語の特徴は、以下の通りである。

(1) 口蓋音化

口蓋音化については、朝鮮語東南方言の特徴とみられる、「ス<フ」の口蓋化の例が観察される。まだ口蓋音化していないと見られる例もあるが、大半は、当時の中央語の資料に同じく、口蓋音化した例が観察される。

(2) 語頭複子音

語頭複子音については、おおむね、喪失したあとの形を示しているが、複子音としての音価に対応するかな表記が当てられている例も見られ、語頭複子音喪失の過渡期的様相を示している。

複子音の音価に対応したかな表記を当てた例は、「ㄷ」を持つものであるが、この例の

ように破裂音と摩擦音の組み合わせのものについては、複子音としての音価を保持する場合があったと見られる。

(3) 出渡り音

日本の朝鮮語かな書き資料に広く見られる現象として、「ㄴ」の出渡り音「nd」に対応したかな表記があるが、本資料においてもそのような例が確認できる。

(4) 終声の音価

「ㄱ」は、中期語では「ㄱ」のように「ㄴ」終声であったが、近世語では「ㄱ」終声に統一された。近世期の本資料になお「ㄴ」終声の音価を示す「クルス」というかな表記があらわれることが注目され、単語によっては部分的にㄴ終声が残っていたことを示唆する。

(5) 「・」の非音韻化

先行する子音の音声資質によって段階的に拡散した分布を見せており、本資料「朝鮮筆記」のかな表記も、「全一道人」と同じ分布の傾向を示している。

(6) 二重母音の単母音化

上向二重母音の単母音化 (ㅑ > e)、前舌単母音化していない下向二重母音、また、第 2 音節「i」の影響により第 1 音節の後ろに /y/ が挿入された例がみられる。

これらの特徴は、おおむね「全一道人」や「朝鮮語訳」など対馬において成立した他の朝鮮語学書類と同様の傾向を示す。この成果は 2012 年 7 月 28 日、29 日に韓国ソウルで開かれた第 4 回訳学書学会国際学術会議で発表をおこない、その後、当学会に論文を投稿し掲載が決定した。(2013 年 8 月発行予定)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

許秀美、「国立国会図書館所蔵「朝鮮筆記」について-合綴された諸資料に関する考察-」、大谷学報、査読有、第 91 巻第 2 号、2012、pp30-57

[学会発表] (計 1 件)

許秀美、「国立国会図書館所蔵「朝鮮筆記」のかな書き朝鮮語について」、訳学書学会、2012. 7. 28、第 4 回国際学術会議、韓国：徳成女子大学、要項集 pp. 91-105、査読有、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

許 秀美 (KYO SUMI)

大谷大学・文学部・助教

研究者番号：50612826